

[普及事項]

新技術名：果樹の新除草剤の実用化(平成9～10年)

研究機関名 果樹試験場栽培部栽培担当
天王分場
担当者 上村大策・小野早人 他6名

[要約] リンゴ、オウトウ、モモ、ブドウ園地において、新除草剤ラウンドアップハイロード液剤は従来のラウンドアップ液剤と比較して効果の発現が同等かやや早く、殺草力が強く、抑草期間も同等以上であり、長期除草用として実用性が高い。

[ねらい]

新しく開発された除草剤の春期と夏期の殺草効果と抑草期間を検討し、長期除草用として実用性の高い薬剤を県防除基準に採用して、果樹園の効率的草生管理体系の改善を図る。

[技術の内容・特徴]

- 1 従来のラウンドアップ液剤(イソプロピルアンモニウム=N-(ホスホメチル)グリシナート41%)がラウンドアップハイロード(アンモニウム=N-(ホスホメチル)グリシナート41%)に変更され、従来よりも殺草効果を示す活性成分量が30%増量され、殺草力、抑草期間が強化された。春期処理(5月中旬)の場合、殺草効果の発現は散布後3～5日目頃、抑草期間は60日以上(表1、2、ブドウ、オウトウについてはデータ略)で、夏期処理(7月下旬)については殺草効果の発現は散布後3日目頃、抑草期間は60日以上であった(表1、2、ブドウ、オウトウについてはデータ略)。
- 2 散布時期は春期と夏期の雑草生育盛期であり、散布方法は、一年生雑草主体の場合は薬量250～500ml/10a、水量25～100ℓ/10a、多年生雑草主体の場合は薬量500～1000ml/10a、水量25～100ℓ/10aを散布する。水量25ℓの場合は少量散布用ノズルを使用し、水量50～100ℓの場合は専用散布ノズルを使用する。
- 3 秋冬期処理についても効果が高く、翌年の6月中・下旬まで草生管理が省略できる(データ略)。

[普及対象範囲]

全県のリンゴ、オウトウ、モモ、ブドウ栽培地帯

[普及・参考上の留意事項]

- 1 ラウンドアップハイロード液剤は、非選択性吸収移行型の除草剤なので果樹の枝葉に直接かからないように注意する。
- 2 草丈が30cm以上になると散布ムラが発生しやすいので注意する。

[具体的なデータ等]

表1 リンゴ園における除草効果

試験区 ラウンドアップ®ハイドロ液剤 (薬量/水量)a当た	春期処理(平成10年5月6日)				夏期処理(平成10年7月15日)			
	殺草効果			抑草期間	殺草効果			抑草期間
発現日数	完成日数	程度 ^{注1}	発現日数		完成日数	程度 ^{注1}		
イ								
(1年生雑草対象)	5	20	×	60日以上	3	10	×	60日以上
25ml / 2.5ℓ	5	20	×	60日以上	3	10	×	60日以上
25ml / 10.0ℓ	5	20	×	60日以上	3	10	×	60日以上
50ml / 5.0ℓ	5	20	×	60日以上	3	15	×	60日以上
対照)25ml / 2.5ℓ								
(多年生雑草対象)	5	30	+3-×	60日以上	3	10	×	60日以上
50ml / 2.5ℓ	5	20	×	60日以上	3	10	×	60日以上
50ml / 10.0ℓ	5	20	×	60日以上	3	10	×	60日以上
100ml / 5.0ℓ	5	30	+3-×	60日以上	3	15	+2-×	60日以上
対照)50ml / 2.5ℓ								

対照薬剤：ラウンドアップ液剤

表2 モモ園における除草効果

試験区 ラウンドアップ®ハイドロ液剤 (薬量/水量)a当た	春期処理(平成9年5月19日)				夏期処理(平成9年8月6日)			
	殺草効果			抑草期間	殺草効果			抑草期間
発現日数	完成日数	程度 ^{注1}	発現日数		完成日数	程度 ^{注1}		
イ								
(1年生雑草対象)	3-5	15-20	+3-×	60日	3	15	+3-×	60日
25ml / 2.5ℓ	3	10-15	+3-×	60日	3	10-15	+2-×	60日以上
25ml / 10.0ℓ	3	10-15	×	60日	3	10-15	×	60日以上
50ml / 5.0ℓ	3-5	15-20	+3-×	60日	3	15	+3-×	60日
対照)25ml / 2.5ℓ								
(多年生雑草対象)	3-5	15	+3-×	60日	3	15	×	60日以上
50ml / 2.5ℓ	3	15	×	60日	3	15	×	60日以上
50ml / 10.0ℓ	3	15	×	60日	3	15	×	60日以上
100ml / 5.0ℓ	5	15	+3-×	60日	5	15	×	60日以上
対照)50ml / 2.5ℓ								

対照薬剤：ラウンドアップ液剤

注1) 殺草効果

- : 効果がない ± : 効果は極めて小さい + : 効果は葉の一部に見られるが葉全体には及ばない
+2: 効果は葉で著しいが茎まで及ばない +3: 効果は株全体に及ぶ × : 株が枯死している

[発表文献等]

果樹試験場業務報告(平成9、10年度)